

1時間の授業の流れとは・・・

これまでは、本時のめあて（目標）と評価の観点について、丁寧に説明してきました。授業の展開はつきたい力を明確化することで決まってくるのがわかっていただけたかと思います。では、1時間の授業展開はどのように進められていくのかを復習していきたいと思います。大学の教職課程でも当たり前のように習ってきたことだと思うので、再確認のつもりで見直してください。

【1時間の授業の流れ】

導入

〈はじまりの言葉(例)〉

「今日はね、こんなものを見てもらおうと思います。・・・」

ダメな例（「前の時間、何の勉強しましたか？」）

・導入では、子供を惹きつける工夫が重要ですよね。理科では、**五感**に刺激を与える導入を目指したことがあります。

課題提示

〈はじまりの言葉(例)〉

「今日はこんなことを考えてもらおうと思います。」

・導入と円滑に接続しておきたいです。導入で軽く疑問を持たせ、「では、今日はこれを解決しましょう。」とつなげられるとスムーズに流れます。

・めあてと課題は違います。めあては、この1時間での到達点を指します。一方、課題は1時間の内容とは限りません。理科だと、実験を通した結果までを、数学だとこれから解きたい例題などです。問題解決の課題の場合は文尾が「～だろうか？」と設定することで、問題解決への意欲や見通しを生み出しやすいです。

めあて

〈はじまりの言葉(例)〉

「では、この課題を解決するために今日は何をしますか。」

・できれば、子供の言葉を拾ってめあてを設定できるといいですね。なので、問いかけることで子供の言葉を引き出したいと思います。教師が一方的に示すのではなく、子供の言葉でめあてをつくることで、自分事として問題に取り組むことができるのです。

・課題は問いになりますが、めあては本時の **Goal** になります。観点をしっかりと示し、本時の目指す方向を絞る必要があります。